

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572007839		
法人名	医療法人 寿光会		
事業所名	ぐるーぷほーむ「こさか」		
所在地	秋田県鹿角郡小坂町小坂字上前田16-11		
自己評価作成日	平成28年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成28年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の平均年齢や介護度が高くなり、また入居年数が長くなることで人間関係もより密度になり、トラブルになることも多いが、お互いを認め合い共に暮らす仲間として過ごしている。家族もそんな入居者同士の関係性を理解してくれている。また事業所の行事では、家族同士が率先して準備や後片付けを手伝ってくれたり、町のイベントでは外出に同行してくれるなど協力的である。一昨年は、地域の盆踊り大会が事業所の駐車場を会場として復活し、地域住民の世代を超えた交流を図ることができた。避難訓練時には顔なじみの協力員のチームワークのおかげで、入居者が安心して訓練に参加できている。また、地域の保育園児が散歩の途中で立ち寄って、入居者とふれあえる機会も少しずつ増えてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者も職員も笑顔で過ごせるようにと、「一日一笑」の理念を大切に日々の介護の実践に努めている。利用者の人格を尊重し、個別の対応が笑顔に繋がっている。地域との関わり合いを大切にしており、近隣住民との日常的な交流のほか、自治会に加入し地域行事へ参加したり、事業所の行事にも地域の方から参加して頂けるよう声かけするなど、地域に溶け込んだ良好な関係を築いている。今後、地域における認知症ケアの啓発などにも力を注ぎ、地域から頼られる事業所になることを期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一日一笑」を事業所の理念として、一日一回は入居者が心から笑顔になれるよう、職員も心のゆとりを持って支援できるよう努めている。	認知症リーダー研修会に参加した職員の意見で、職員全員で話し合い1日一回は利用者と職員も笑顔で過ごせるようにと「一日一笑」と理念を作り上げた。実践できるよう、ミーティングで話し合わせ、日常的に意識して働いている様子が見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と事業所相互の行事交流や、地域の野菜直売所から週1回野菜を購入して地域とのつながりを継続している。また入居者が一人で歩いているのを見かけると声をかけてくれるなど、顔なじみのつきあいができている。	地域の野菜直売所とも馴染みとなり、野菜をよせておいてくれたり届けてくれるなど関係作りが構築されている。自治会に加入し、町の行事や総会、婦人会にも参加されている。外出時は民生委員やボランティアの協力が得られており良好な関係を保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	避難訓練時に参加協力してくれる地域の協力員には、事前に打ち合わせを行って、入居者それぞれの状況を伝えて、認知症の理解や支援の方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域からの意見などはサービス向上に活かしている。	運営推進会議には職員も交代で書記として参加し、案内文を地域に配るなど職員も地域に溶け込めるよう努めている。委員からは助言や意見などが出され、充実した話し合いとなっている。意見や助言はミーティングで報告し話し合い、サービスの質の向上や地域との関わりを深めるため活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、事業所の状況や取り組みに理解を得られている。	市町村担当者が推進委員になっているため事業所の状況を伝えるなど日常的に連携がとれている。また、日常生活支援事業を通じて、社協や市職員と連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の出入りを把握するために、センサーを設置しているが、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について理解し、利用者が外へ出て行く時は止めるのではなく、さりげなく声かけ見守りをし、安全面に配慮し、自由な暮らしを支えている様子が確認できた。また定期的にテーマを作り身体拘束、高齢者虐待防止に関する勉強会を行い、職員の認識の共有化に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員と入居者の関係性もあって、対応が難しい時には、職員が交代するなどして、お互いのストレスにならないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用している入居者が、混乱なく生活支援員と面談できるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等の時、家族には利用契約書や重要事項説明書と合わせて、十分な説明を行って理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や運営推進会議での意見を運営に反映させている。	玄関に苦情箱を設置している。家族の面会時に利用者の状況を報告し、意見や要望を確認できるよう努めている。	家族の意見や要望は言い出しにくいということを理解すると、意見、苦情は事業所にとって大切な宝です。家族が意見を出しやすい機会を作るなど検討し、潜在的な意向の把握に努めてほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のコミュニケーションや職員ミーティングなどで職員の意見や提案を聞いて、事業所の運営に反映させている。	月1回のミーティングのほか、連絡帳を使い意見を出しやすくしており、意見や提案は運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課で職員の努力や実績などを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	長期にわたる介護実務者研修の受講を希望する職員の休日に配慮するなど、働きながらレベルアップできるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿角市のGHケアマネージャー会議や研修会に参加したり他のGH職員と共同して研究発表のテーマに取り組む機会を通して、同業者との交流をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の好きなことや笑顔、できる力を引き出しながら、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の関係性を把握して、サービス利用に不安や葛藤を抱いている家族の気持ちを理解し、できる限り、家族の話を伺うように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに共に過ごす時間が長く、時に嫁と姑であったり、孫と祖母になったりすることがある。そのような関係性を通して、入居者を尊重しながら暮らしを共に過ごしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの家族の家庭環境や立場、心境などを理解しながら、絆が断ち切れないように努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望で馴染みの人を訪ねたり、面会時には、気遣いせずゆっくりと過ごせる環境を整えている。	お盆の頃には、お誕生日を兼ねて家族の協力を得ながらお墓参りをしたり、本人の希望で馴染みの人を訪ねたり、友人の訪問を歓迎するなど、これまでの関係継続に努めながら思い出が切れないよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性が悪かったり不穏やトラブルになりやすい入居者同士の関係性と、トラブルになりやすい時間帯や場所を把握しながら、トラブルが起こった時には、できるだけ早急に対応して、入居者同士が孤立せず関わり合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、退居後の本人の経過を含めて、家族の思いを伺うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を汲みとることが困難になっているがこれまでの暮らし方や、職員との関わりを通して伝わる思いを通し、本人の立場になって考えるように努めている。	日々の関わりの中で、言葉や表情などから思いや希望、意向など把握し、職員で情報を共有している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や他サービス提供者からの情報や本人との会話を通して、これまでの暮らしを把握している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う表情や行動が見られた時には、職員で情報を共有しあったり、朝夕の申し送りで見居者の一日の過ごし方を把握している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員ミーティングで話し合っている。	職員全員に利用者一人ひとりの意見を書いてもらい、ミーティングで話し合い介護計画に反映させている。利用者の個々の状況に応じた個別の介護計画が立案されている。	計画内容や実践状況を職員全員に周知し、共有化しながら統一に努めてほしい。家族からの要望等も少ない為、利用者の生活目標も家族とともに話せる機会を作り計画に反映させてほしい。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に生活の様子を記入し、情報共有して不穏時の対応など実践に活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	受診や買物など決まった場所や範囲での生活であるが、敬老会に社協を通してコーラス慰問の社会資源を活用する機会はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医などの利用を継続しており、事業所との関係も問題なく、家族も安心できている。	利用者や家族の希望する医療機関に職員が付き添い受診している。受診結果は電話のほか、月1回送付する近況報告書の用紙で家族に報告している。薬局とは日頃から情報をもらったり、相談しやすい関係にあり、連携が図られている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携訪問看護師が来訪した時には日々の様子や健康状態、受診状況について報告・相談している。また体調不調時には、電話で状況報告を行って、適切な対応をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて行っている。またかかりつけ医を定期受診することで、緊急時など他病院を紹介してもらえる関係づくりを行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、事業所では重度化した場合や終末期の看取りは行わない方針であることを説明して、理解と同意を得ている。	重度化に関する指針があり、入居時に利用者家族に重度化や終末期の看取りは行わない方針であることを説明している。状態に変化が生じたり、本人や家族の意向が変化しても話し合い、事業所のできる部分を説明し、主治医や他の関係機関と連携を図り、対応の検討に結びつけている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急講習会に参加してAEDの使い方を学んだが、実践力を身につけるためには、定期的な訓練の必要性がある。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の夜間想定避難訓練では、地域の協力員も参加して避難誘導に協力している。	事業所内にスプリンクラー、火災報知機を設置、非常時の食品や発電機など備品なども備蓄している。また、夜間想定避難訓練も年2回実施し、消防からも指導を仰ぎ非常時に備えている。	地域の協力を得ながら避難訓練が行われているが、地域からの意見である夜間の避難訓練を行うことに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまで長い人生を歩んできた人生の大先輩として尊敬し、自尊心を傷つけない言葉かけに努めている。	プライバシーに配慮した言葉掛けを行うように職員会議等で確認しており、利用者の生活歴や性格の把握に努めながら利用者の「できること」に着目して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉でのコミュニケーションが困難な入居者の表情や行動で気分を察したり、休息や食事時間など自己決定できる入居者の気持ちに添った支援ができるように努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中、帰宅願望や不隠の強い入居者には、じっくりと寄り添って、その人のペースに合わせ穏やかな気持ちで過ごせるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にした身だしなみを整える支援をしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「自分のおばあさんがこうして教えてくれた」と色どりを気にかけて、おかずを盛付けてくれたり、「何か手伝うことありますか」と後片付けを手伝ってくれる時がある。また入居者同士で味見をしながらリンゴの皮むきをしてくれる時もある。	利用者の状態に応じて可能な範囲で食事の準備や後片付けを手伝ってもらい会話や笑い声のある雰囲気が見られた。また、食事は利用者と職員と一緒に会話をしながら和やかな雰囲気の中でゆっくり楽しんでいる。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量をチェックしたり、希望者にはペットボトルにお茶や水を準備している。また食欲がない時には、栄養補助ゼリーを準備している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後には、歯間ブラシや義歯消毒剤を使って個々に応じた口腔ケアを行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	席を立ったり、そわそわして落ちつかない様子など個々の排泄サインを把握して、トイレで排泄できるよう支援している。また「自分でできる」という気持ちの強い入居者には、その自立心を大切にしながら、状況を見て排泄の失敗時の支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してさりげないトイレ誘導を行っており、夜間はポータブルトイレを使用するなど、利用者に合わせた対応で排泄の自立を図り、おむつの使用を減らしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理にオリゴ糖を使ったり、毎朝、乳酸菌飲料を飲んでもらったりして、個々に応じた予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	就寝前に入浴することで、心地良い眠りに繋がられるようにしている。また個々の健康状態に合わせて、本人が入浴を楽しめる範囲で、湯に浸かる時間を配慮したり、男性の入浴後に入浴することを好まない入居者の希望に添った対応をしている。	利用者一人ひとりの希望や心身の状態を把握し、時間を調整し就寝前に入浴することで心地良い眠りに繋がられるようにしている。また、介助の必要な方でも不安や負担なく安全でくつろいだ生活ができるよう支援している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、和室ソファなどで休息している入居者の安眠を妨げないように配慮したり、居室で休息を促すなど状況に応じた対応をしている。また夜、眠れない時には、話を聞いたり、温かい飲み物を飲んでもらうなどして、ゆったりとした気持ちで眠りにつけるようにしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服用している薬についての理解に努め、症状の変化によっては、その都度主治医に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や雑誌がいつでも読める環境を整えたり、歌が好きな入居者と一緒に職員が唄って過ごしたりしている。台所仕事など入居者が張り合いをもって自らが行っていることを支援している。また外出時にはドライブや外食をして気分転換できるようにしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が気分転換に繋がる入居者には、買物や病院受診など日々の用事で出かけている。町の行事(アカシア祭りや小坂七夕)では、家族や地域の人々に外出ボランティアとして協力してもらい、出かけている。	本人の希望及び心身の状態・天候などを考慮し、出来る限り散歩や買い物などで戸外に出て外気や様々な刺激に触れることのできる機会を設けている。事業所の行事・町の行事では家族や地域の外出ボランティアとして協力してもらい出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを職員は理解し、個人的にお金を所持している入居者が、居室内にある自分の財布を探しだせずに困っている時には、他者とのトラブルにならないよう配慮しつつ、一緒に財布を探して、安心感をもてるようにしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いたり、親族などからの電話があった時には、職員が電話を取り次ぎ、本人が周囲に気遣いせず、思いのまま話ができる環境を整える支援を行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度には十分配慮して快適な環境で過ごせるよう調整している。ホールには季節を感じられる手作りの飾り付けや花鉢を飾っている。またテレビや入居者同士の会話に対して不快感を示す入居者もいるため、音量を調整したり職員がその場で一緒に過ごすなど、トラブルにならないよう臨機応変に対応している。	事業所全体が清潔で換気や温度調節、採光に気を配り快適な空間作りに努めている。また、和室もあり、畳のスペースは冬はこたつが置かれ自由に過ごせるよう配慮している。	本人にとって心地よく危険なことが及ばないように見守ることは、利用者の安心、くつろぎに繋がります。利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、利用者にとって居心地の良い場の整備に期待したい。
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の人間関係を考慮して、視線が合わないようにソファの位置を変えたり、気分によっては、周囲に干渉されず独りで過ごせるような、静かな場所にイスを置くなどして、その状況に応じた工夫に努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、写真や愛読書、ぬいぐるみなど本人にとって思い入れのあるものを居室に置いて、居室に戻ったときに「自分の部屋」と実感できるようにしている。	利用者一人ひとりが使っていた愛読書、好みの飾り物などを持ち込み、その人らしい居心地の良い空間となっている。居室は2タイプの広さがあり、希望によって選択でき、明るく清潔で落ち着いて過ごせるよう配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口には、入居者の名前札を読みやすい大きさに記し、自分の居室がわかるようにしている。またトイレや台所、ホールなど自分の行きたい場所がわからず困っている時には、職員がその場に案内して、自分でできるようにしている。		